

提出資料A-II (A3版サイズ)

A. 屋内緑化コンクール 作品部門 審査資料

(受付番号)

(フリガナ)	バスタシンジユク オクナイリョクカ
作品名称	バスタ新宿 屋内緑化
所在地	東京都渋谷区
応募施設	1 公共 2 学校 3 病院 4 老健 5 事務所 6 商業 7 集合住宅 8 その他
完成時期	平成 28 年 3 月 31 日

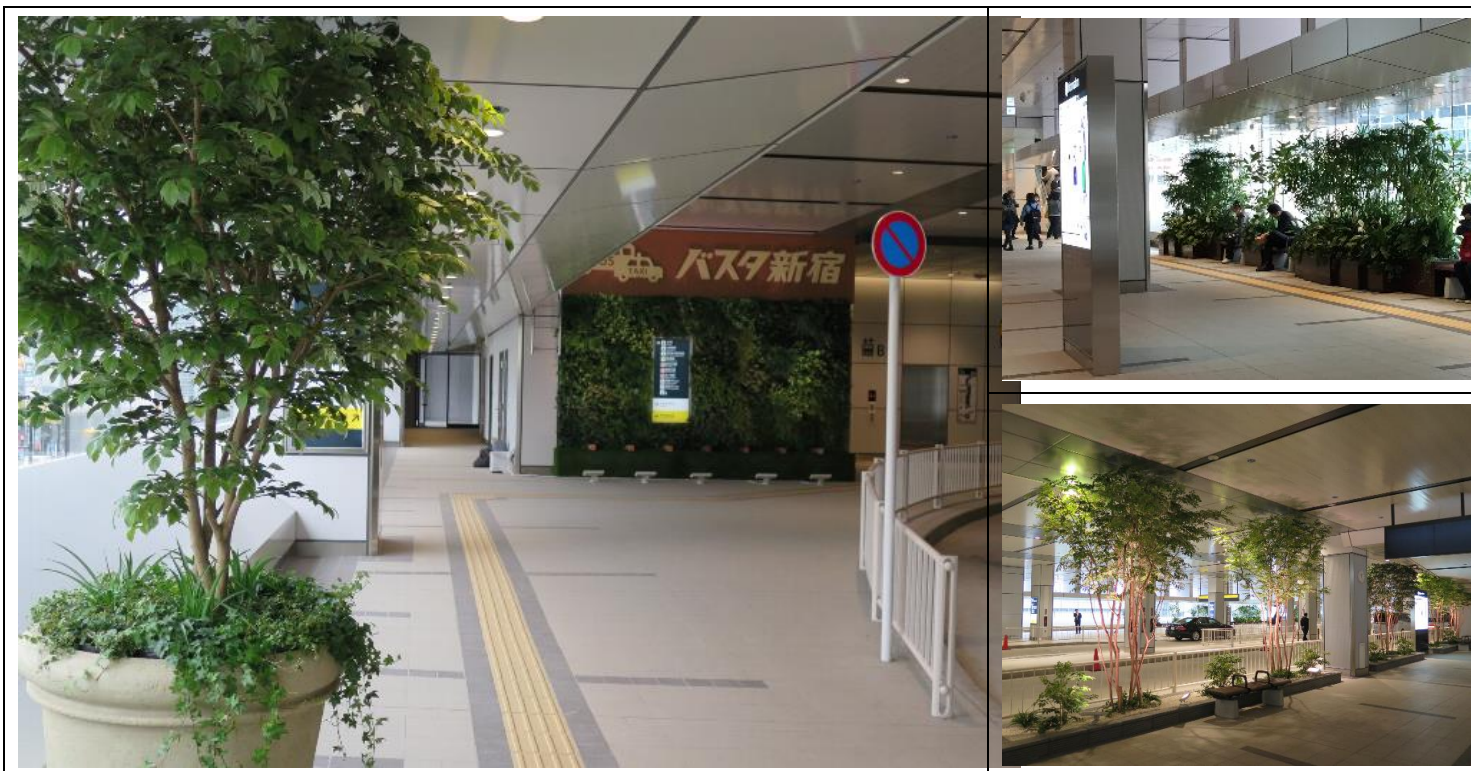
○作品の概要

バスタ新宿は、新宿駅南口地区に高速バスターミナル、タクシー乗降場などを集約した総合的な交通ターミナルとして開設されました。本ターミナルは、立体道路制度を利用した建物の中に国道20号が入り、国土交通省が管理しています。

当初、ターミナル機能を重視した計画では、車道と歩行者通路が整備された空間でしたが、利用者に対する「おもてなし」「やすらぎ空間」を求めて、ターミナル施設に緑化空間をつくり、滞在を快適に過ごせる空間として整備されました。

植栽は、高木植栽、プランター緑化、壁面緑化を各所に配置し、空間のボリュームに負けない緑量を確保しています。また植栽は、利用者が滞在するベンチや通路、滞留空間に配置し、休息と緑化を合わせたデザインとし、ターミナル施設の景観や機能に配慮しています。

多くの利用者に対して緑化が施された施設空間は、国土交通省が管理する道路施設としては数少ない事例で「バスタ新宿」の事例が今後、新たな交通空間への緑化に寄与すると思われます。



○作品のアピール点

「バスタ新宿」は、国内外を問わず多くの利用者が訪れる交通ターミナル施設となります。施設の利用者にとって、その場所で過ごす時間が快適に過ごせるように、緑化の機能やデザイン、配置を考えたゾーニングを行いました。そして、利用する交通機関の発車を待つ時間や待ち合わせの場所として利用できる機能を、植栽に取り込みデザインを行いました。

3Fでは植栽とベンチを組み合わせて配置することでレストスペースを設け、植物に囲まれた空間で時間を過ごせる場としました。また、施設空間でのストレスを軽減するために、高木を配置して、街路樹の景観を施設内に取り込みました。壁面緑化を配置した空間では、人工芝に腰を下ろして休息するベンチを配置するなど、利用者を楽しむ時間を提供しています。

このように利用者の利用シーンを考慮したデザインをすることで、多くの緑化アイテムを配置しています。緑化の利用方法や機能・デザインを一つの施設に集約した事例は、今後の屋内緑化の好事例となり、普及の一役を担う事例と思います。



○緑化システム

現場は外気が入ってくる環境であるため、耐寒性と耐陰性のある植物を選択して、植物の植替えを最小限に抑えられるようにしました。レストスペースの生木は、プランターへ直接客土を敷き込み、植物を植え付けることで、植物の水持ちを良くし、メンテナンスの作業頻度を抑えることができました。

レストスペース周りの植栽は、数種類のサイズのプランターを組み合わせることで緑地帯を作りました。将来的にレイアウトを変更する際にも、プランターを移動することで簡単に緑地帯の形を変えられるようにしています。

プランター置きでの植栽では、アーティフィシャル（高木）と生木（下草）を組み合わせました。人の目線に近い下草は生木を使用することでリアル感を追求しています。